



# ベルデネット



発行 2023年1月30日 (第12号)

事務局／堺市立重症心身障害者（児）支援センター内  
ベルデ地域支援センター

〒590-0808 堺市堺区旭ヶ丘中町4-3-1 堺市立健康福祉プラザ2階  
電話 072-275-8510 FAX 072-243-5900

## ベルデさかいからのごあいさつ

新型コロナウイルスの嵐が吹き始めてからまる3年が終わります。100年前のスペイン風邪が終了まで3年を要した、ということなので、それ以上になりそうです。今この感染症をインフルエンザ並みとみなす動きがあるようですが、私たち重い障害がある方々に関わっているところでは気を緩めるわけにはいきません。

そうした中で、新型コロナで利用をストップしたために、相当な赤字を背負いこんだ事業所のお話を聞きました。他の事業の多くでは、十分というにはほど遠いのですが、何らかの補填策があるのに比して、短期入所ではありません（福祉型、医療型を問わず）。ベルデでも同様にかなりのマイナス収入になります。まだ感染が続くとすれば、これは放っておけないことです。とりわけ短期入所も含め、在宅支援に力を入れている事業所が多い堺市では、他にもお困りのところがあるでしょう。そこで重症心身障害施設関係の法人の組織である全国重症心身障害福祉協会で傘下の施設の実情アンケートをとり、この10月には厚生労働省に支援策検討の要望書を提出しました。ただし、もし新型コロナウイルスが2類から5類に下げられると、こうした政府の補助は得られなくなるかもしれません。利用者が減っても職員は確保は必要です。とにかく頑張り抜きましょう。

今年は年度内に、大阪府としての医療的ケア児支援センターが設けられます。当初は大阪府内で数カ所（堺市も含む）という観測もあったのですが、どうも府全体で1カ所になるかもしれません。

この支援の対象になるのは基本的には18歳未満の「児童」です。しかし他方で、年齢が40歳を超えてから胃瘻や、時に気管切開など医療的ケアが必要になる人が目立ってきています。今まで市内の生活介護を利用していた人、短期入所を使っていた人も、医療的ケアが重なり困難になってきます。ご家族もご高齢になり、あるいはおられなくなり、本当にお困りの方がおられます。ベルデを拡張せよ、という話も聞きますが、そう簡単な話ではありません。それに地域生活はやはり大事です。改めて、重度の方、医療や看護が必要な地域生活も含めた支援の仕組みを考え直す時期にきているといえます。

これからベルデ入所ご希望で待機しておられる方々も含め、人口80万人超の県並みの規模の堺市という地域で、障害者が生きていくには、あるいは支援するにはどうしたら良いのかを考えていこうと思います。このネットでも皆様の声をお寄せください。

堺市立重症心身障害者（児）支援センター  
センター長 児玉 和夫

## 地域支援センターからのごあいさつ

2年間、新型コロナウイルス感染症の影響で開催できなかった、堺市主催の障害者フェスタで、「視線入力装置であそぼう」をベルデ地域支援センターの事業として開催できました。以前開催していた、電動車いすレースほどの規模ではありませんでしたが、地域で暮らす障害をお持ちの方や子どもたちが遊びに来てくれ、楽しい時間を過ごしました。

また、ベルデさかい入所利用者がコーヒの殻で作った消臭剤を売る売り子として活躍してくれて、おかげさまで完売しました。これも、立派な社会参加の第一歩です。コロナ禍で、忘れかけていた人と人との触れ合いの意義や尊さを感じることもできた、とてもいい時間と景色でした。

地域の生活介護事業所からのリハ支援依頼も少しずつ増えてきています。やはりこの3年間の機能低下や自由に外出ができないことなどが原因の精神活動への影響は想像以上に大きいと実感させられます。高齢者でも問題になっている「フレイル」と同じ構図です。

人の日々の生活の維持のためには、運動と精神の活動性が相互に連動して成り立っています。精神的欲求を果たすために動くといっても過言ではありません。それが制約されるということは、自由を奪われているということに他なりません。改めて自由に動けることの意味や重要性を考えさせられます。

ベルデさかい地域支援センターは、今までの活動内容を振り返り、反省点を踏まえて次のステップへ向かっています。ベルデネット11号の事業計画にも記載した通り、ベルデさかいが中心になり、他事業所と連携しながら堺ミーティングや様々な研修会、検討会などを企画運営していきたいと考え、実行しています。現在は、8つの事業所・個人がSNSを活用したミーティングを不定期で開催しており、事業計画や研修会の内容検討をしています。

次回の第26回堺ミーティングでは、クレヨンキッズクリニックの関谷真一郎先生にご講演をお願いしています。早速その内容についても検討を重ね、講演内容にも反映できるようにお願いしているところです。

今後は、この試みにご賛同いただける事業所・個人の方々と、より充実した事業展開ができるようにしていきたいと考えています。引き続きご協力をお願いします。

ベルデネット12号をお届けします。

ベルデ地域支援センター  
入所支援部・地域支援部長 小澤 明人



# 地域支援センターからのご報告・お知らせ

講習会や勉強会などの詳細は、ベルデさかいホームページに随時掲載します

## 第25回堺ミーティングの報告

タイトル：よりよい地域支援体制の構築をめざして  
～コロナクラスター発生の事例から学ぶ～

講師：上之園 康氏 社会福祉法人コスモス 中南エリア長・ふれあいの里かたくら施設長  
中村 智明氏 社会福祉法人コスモス ふれあいの里かたくら施設長代行

日時：2022年8月10日（水） 18：30から20：20

開催方法：ZOOMによるオンライン開催

上記の通り、第25回堺ミーティングを開催しました。  
参加者の内訳は、14事業所から18名（ベルデ職員は5名）でした。

2022年1月からのコロナ感染症第6波で、多くの感染者が発生し、事業運営に多大な支障と減収をきたした事業所からの報告をお願いしました。

ベルデ地域支援センターでは、過去約7年間の地域支援事業を継続する中で、堺市内外の各種事業所とのネットワークづくりを行ってきました。しかしながら、今回のクラスター発生に関しては、このネットワークが全く機能していないことがわかりました。非常にショックでした。そこで、今回の堺ミーティングでは、事例を通して地域支援体制の見直し、再構築をすることを目的として開催しました。

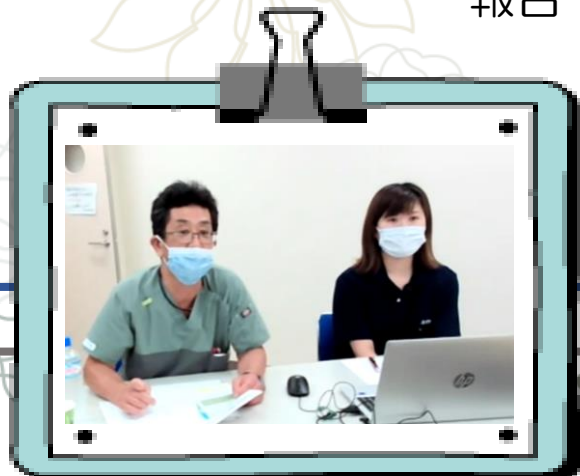
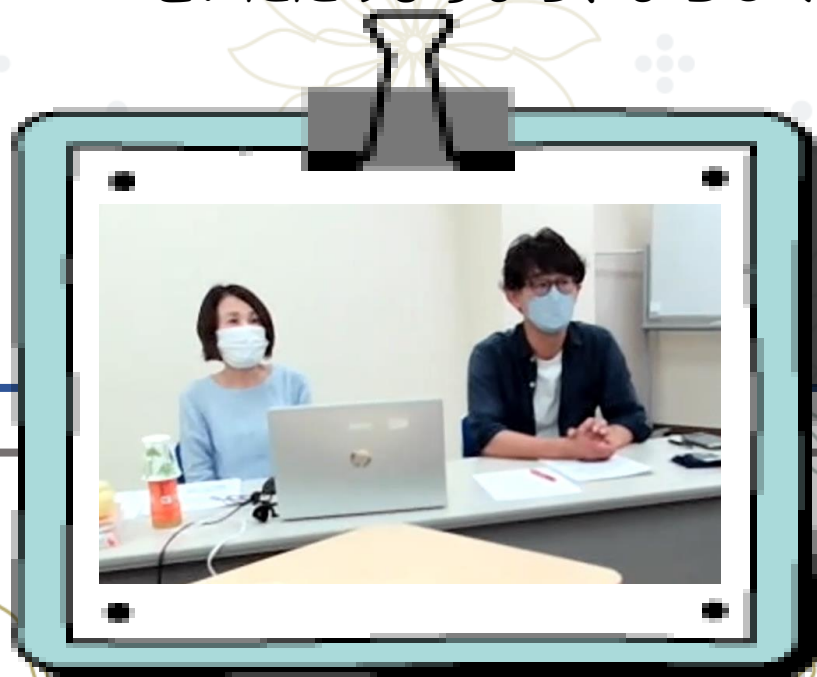
講師のお二人にクラスター発生時の、利用者さん、家族、職員の状況や、事業運営のご苦労、その後の利用者さんや家族の変化、反省点や今後の展望などについてお話しいただきました。とても衝撃的な内容でしたが、職員の使命感の強さは参加いただいた皆さんの心に深く響いたと思います。そしてそれらの事例から私たちは何を学び、活かしていくべきなのかを考える非常にいい機会となりました。

参加者とのディスカッションでは、コロナ禍での重度障害の方々の生活支援と事業継続の困難さについて話し合われ、事業所間での支援体制の重要性を確認しました。また、「医療崩壊が福祉に押し寄せてきた」ことに関連して、支援者からの医療に対する願いや想いと、現在の医療の限界などについても話題はおよび、深く考えさせられる内容となりました。

今後の地域支援体制の再構築には、SNSでの情報共有方法を活用するなど、実用的で持続した活動ができるように取り組んでいきたいと思います。

改めて、この地域にお住いの、重度の障害をお持ちの方々の生活支援のために皆様のご協力をいただけますよう、よろしくお願いいたします。

報告 地域支援部長 小澤 明人  
地域支援担当相談員 渡辺 美咲



## 第26回堺ミーティング

令和5年3月2日 開催決定！

講師：クレヨンキッズクリニック  
院長 関谷 真一郎先生  
（元 ベルデさかい診療部長）  
詳細は後日ご案内します！